

# 生友 第七号

2001年10月27日発行  
発行所  
平塚市北金目1117  
東海大学工学部  
機械工学科内  
東海大学生友会

## 「生友会役員の皆様へ」

生友会会長 鷲田 義昭

生友会の皆様、今年も引き続き機関誌「生友」を発行することが出来ました。生友会会長として、この場をお借りして皆様に、逼迫した生友会の現状をお知らせすると共に幹事の皆様の自覚を促したいと思います。今年も生友会の活動は、会則に規定された事項については、形として全て実施出来るものと考えております。しかし現実にはこれらの活動をしているのはごく少数の四人から五人の幹事で生友会を支えているにすぎません。また今年の卒業生のうち当会に入会された方は、二十数名でしかありませんでした。生友会の活動資金がこれらの新しく入会された方の入会費と今までに蓄えられた入会費とで賄われていることは、皆様ご存じのとおりです。年々減少する入会者を増加傾向にするため各種の手段を月例幹事会で試行錯誤を繰り返しておりますが、決め手となる案は未だ出ておらないのが現状です。

幹事会において幹事の大多数が主席しない現状が端的に生友会の衰退を如実に現しています。私は幹事諸君に訴えたい、これは全くのボランティア活動です。卑猥な言い方をすれば一銭の得にもなりません、しかも手弁当での活動です。この事は、幹事を引き受けた時点で了解して頂いていることです。しかし出席出来ない理由が、何処にあるのか出席して意見を述べて頂かなければ幹事会そのものの改革も出来ません。今年も幹事会並びに執行部の改選の年ですが現状ではそれも不可能です。幹事一人一人の自覚をお願いします。出来ません。ぜひ初心に立ち返りまずは幹事会の再生を図る必要が有ります。

その第一歩として幹事会への出席をお願いいたします。

幹事会開催日時は、吉澤事務局長から毎回連絡がいつています。次回の幹事会は十一月、新宿東口の「滝沢」で十六時間開催を予定しています。吉澤さんより連絡がいきます。まずは出欠の連絡を吉澤さんにしてください。幹事会再生の第一歩です。生友会の発展と会員の皆様の活動をお祈りしつつ筆を置きます。

## 「世界の高等教育事情を少し覗き そして機械工学科の歩み・現状・展望」

生友会顧問 青木 克巳

卒業生の皆様お元気ですか。皆様には御健勝で御活躍のことと存じます。また、生友会へのご無沙汰をお許し願いたい。

さて皆様も御承知のように最近のニュースとして、ニューヨークで発生した民間航空機乗っ取りによる世界貿易センタービル突入・爆破、ペンタゴンの爆破等同時多発テロ事件が発生し五〇〇〇人の死者がでるなど世界の人々を震撼させています。その世界的不安は現在尚アフガニスタンへの戦争として発展、またそのテロの報復行為ともみさせる生物兵器(炭素菌使用)による感染者・死者が出るなど社会不安を一層募らせるばかりです。二十一世紀に入ったばかりなのに予測もつかないことが次々から次々へと起こっています。

現在、日本においては経済不況の上に社会的不安を募らせるような犯罪が次々から次々へと発生しております。経済不況に関しては小泉総理が経済の活性化に對し「構造改革」を掲げ取り組んでいるようであり、アメリカ経済の不況の中でその見通しも難しい中でも期待せずにはいられません。しかしながらこの構造改革はあらゆる面に波及し至るところで行なわれているようであり、今日のようにグローバル化した国際社会の中では各国とも自国社会の競争力を高めていくと言う観点で様々な検討されていますが、最終的に

は人材育成の重要性をそれぞれの国が認識し、一九八〇年代から世界の各国で教育の見直しや、教育改革が積極的に行なわれてきました。特に欧米を中心とする先進国で種々の観点から取り組まれてきているようです。例えば、アメリカの教育改革の発端は一九八三年に「危機に立つ国家」という連邦政府の報告書が出されて以来、レーガン大統領、クリントン大統領と受け継がれ、そして現在のブッシュ大統領もそれぞれ連邦政府の政策として教育問題を最重要・最優先課題に取り上げ今後五年間で現状の三倍予算を増額するとの事です。またイギリスにおいてもサッチャー政権以降教育への競争原理を導入し、以前あったポリテクが大学の制度の中に一緒に入り、より競争意識を高め、評価機関による評価システムが確立されその評価により大学への補助金の配分も行なわれています。このシステムに反発する者もいるようですが国際社会に立ち向かうための競争原理の基本政策が依然と進められていくようです。一方、隣国の韓国では「BK二十一世紀授業」という七カ年計画で競争力のある大学二十校前後が選ばれその選ばれた大学に二百億円を集中的に投入するという事です。また中国でも同様に「二一プロジェクト」で百校前後の大学に重点投資を行なっており、五年間で二千三百億円を投入していく計画が進んでいるようです。このように各国とも経済活性化の構造改革は根本的に優秀な人材育成に目が向けられ高等教育の充実、レベルアップにあります。さて、ここで日本は世界の国際競争社会の中でどのような状況におかれているのでしょうか。

発表され、十三年度から五カ年計画で科学技術発展のために研究開発投資総額二十四兆円が開発投資されることになりました。文部科学省は国公立を通じて大学を起点として日本の社会構造改革をしていく方針を掲げています。またもう一つの改革は、世界最高水準の大学づくり、人材大国の創造、都市地域の再生、都市地域と一体となった大学への転換等となつています。従って理工系の各大学においては先導的・独創的な研究開発、主体性を持ち未知の分野にも積極的に挑戦するチャレンジ精神に富む人材の育成をするために各大学では制度の見直し、カリキュラム改革等の取り組みが行なわれている。このように高度の質の高い専門化、技術者、並びに大学を国際レベルの水準で外部評価による評価・認定する制度、すなわちJABEE(日本技術者教育認定機構)が発足しました。この制度は工学教育の中に位置付けられ、この認定に通過した大学と通らない大学では、専門教育を受けた技術者並びに大学の社会評価はそれなりに下されるであろうと思えます。

さて、ここで東海大学の生産機械工学科を少し振り返って見たいと思います。本当に月日のたつのは早いもので、機械工学科が創立(一九六一年六月)されて本年で四十年になります。それから三年後の一九六四年に機械工学科は生産機械工学科と動力機械工学科の二専攻に分かれ、一九六七年(昭和四十二年)に生産機械工学専攻の第一回の卒業生八十六名が巣立ちました。その後、一九七一年に専攻から生産機械工学科として発足し現在に至っています。ですから本年で創立三十七年目を迎えているわけですが、小生が大学に勤務し今年で三十五年になります。当時をふりかえり学科の歩みを辿って見たいと思えます。学科設立と共に福岡(一九六六年)と札幌(一九六七年)に、二年次を対象として生産機械工学科の教養課程がおかれ、三、四年次は湘南校舎で湘南校舎入学生クラスと合併クラスとなり専門教育が行なわれた。このころの学生は全国から入学してくるため学生の個性も地方色豊かであったように思います。しかし、一九八八年に札幌教養課程がまた一九九〇年に福岡校舎の教養課程が、それぞれの役目を終わり廃止される

という評価を下されたことと考えられます。これらを意識し世界情勢を鑑み科学技術基本計画が文部科学省より

まで、湘南校舎の専任教員が交代で特別講義を行なったのをおぼえています。私も一年に二、三回ほど札幌校舎と福岡校舎に集中講義行きました。集中講義の学生達と湘南校舎で会えることも一つの楽しみでした。

本校の遠隔で大雑把に眺めると一九六四年〜一九七八年は創設期であり、学科を表わすキーワードは「設計・プラントエンジニアリング」である。初代主任教授の興津史朗先生はかつて三井建設・三井鉱山の設計部門でプラント建設の権威者として御活躍した経験を生かし、エンジニアたるもの理屈を言っても物ができなければエンジニアではない。すなわち、エンジニアは総合的専門能力を生かしエンジニアとしての世界共通の言葉である図面が描けなかつたり読めないものはエンジニアとして失格である。とよく言われたことを皆様も記憶していることと思います。教授はお酒が好きで太っ腹、厳しい面と心の熱いものを持ち合わせ、大変お話が上手で第三工学部の講義は見事なものでしたね。こんな話をするとは本題からそれてしまうのでやめますが、設備に関しても現状と比較して充分であったとはいえませんでした。プレハブ実験棟の二階でトレーニング用紙が汗のため手にくっつき汗を拭き天井走行クレーン、満巻きポンプ、万力、ギヤーポンプ、マメジャッキの設計や製図を行なったこと、提出期限まじかになると多くの学生が徹夜を行なっていたこと等が思い出されます。またこのころは大学の知名度も乏しい為学生の就職のために教員が手分けし各地へ何度となく出張し、ご挨拶まわりのことを覚えていきます。一九七二年度から、三年次より、材料・設計・熱流の三コース制が引かれ実施された。

一九七九年〜一九八八年は発展期であり、学科を表わすキーワードは「CAD/CAM・ロボテックス・メカトロニクス」である。この時期になると当学科も当学科はその姿勢を崩さないため二〇〇〇年にJAB E E (日本技術者認定機構)資格の取得を目指し、機械系の実験棟四棟が取り壊されその場所に新たに地上十一階・地下一階の十二号館が建設された。地下一階

には機械工場、材料共同実験室、NC工作室が地上には図書館、CAD室、製図室、機械系教員の研究室並びに実験室が集結され、創設期と比較し環境が改善され、教育・研究の充実が図られるようになった。

一九八九年〜二〇〇一年は改革期であり学科のキーワードは「物づくり」である。昭和天皇が崩御され、年の崩壊により就職も氷河期を迎え、さらに十八歳人口の減少により受験生の減少が現れ始めた。大学ではこれらの問題に対処するため、工学部は他の学部と先立ち改組改編(二〇〇一年度)が行なわれた。この結果、これまでの工学部(十六学科)を電子情報学部(七学科)と新工学部(九学科二専攻)に分離し時代の要請に沿って名称変更した。生産機械工学科は学科内容がわかる名称を掲げると同時に国際化した社会に正面から立ち向かえるエンジニアの人材育成を行なうため創設期の「機械工学科」と名称変更した。動力機械、航空宇宙学科は他大学にない東海大学固有の名称であるためそのまま生かされた。また精密機械は精密工学科と名称変更した。また、大学全体の取り組みとしては国際化に対応した制度の導入として全学部学科がセミナー制導入に踏み切った。

現在機械工学科は国際社会に通用するエンジニアを育成するため教員は一九となり熱い教育を厳しく行っている。確かに卒業年度の学生の五十%近くが留年している。確かにかつてないことで、大学全体でも最も厳しい学科であろう。しかし、学科の教育に対する姿勢が少しずつ理解され、浸透し始め学生の授業態度・熱意の向上、勉学意欲が見られてきたことは確かかのようにだ。

この試行の受けた注目度は非常に大きく各大学からの問い合わせも多く、近い将来の機械工学科の成り行きを見守っているようである。現在カリキュラムの大幅な見直しが行なわれつつある。これも国際社会に通じる実力を備えた学生を育成するためであり、機械工学科は大きなスローガンを抱えて進んでいる、それは二十一世紀を担える幅広い専門知識をもち、問題発見、解決能力を有する心豊かでバランスの取れた視野の広い機械エンジニアおよび研究者の育成」を教育目標に掲げ再出発することになり、新たな発展が期待されるであろう。

小生の勤務年限もそう長くはない、卒業生の母体である生友会の皆様と伴にまた皆様の期待を裏切らないよう生産機械工学科・機械工学科発展のため時間を惜しまず頑張りたいと思います。皆様方からの建設的なご意見・御協力を賜りたい。

「新体制にあたって」  
機械工学科 教授 鈴木 曠二

故三浦先生や仲尾先生はじめ多くの(いや少しの)先生方と共に一年生と二年生の全てをみていたことを思い出します。昔なりのたかっつ小学校の先生のようにであった札幌校舎での若者達との付き合いでした。もう十何年も前のことです。生産も動力もありませんでした。スキーを教えてもらおうと、「・・・こう滑っていいこう行きたいときはこうするってわかる管でしよう。授業で言っていた求心力じゃないですか・・・」などと教えられたものです。彼等若者達も今や彼等の子供達の生きてゆくこれからの社会を憂慮し希望する世代です。

「会計就任にあたって」  
機械工学科 関根 啓由

今春生産機械工学科を卒業しそのまま技術職員として本学科にお世話になることになりました関根と申します。生産機械工学科の卒業とほぼ同時に会計として生友会に入ってもらえる事に感謝と共に責任を感じております。まだまだ社会に出たばかりですが、事務局長である吉沢さんの足手まといにならないように、精一杯に卒業生と学科のパイプ役として頑張っていこうと思っております。何卒、宜しくお願い致します。

「新任職員あいさつ」  
機械工学科 滝川 裕美

今年の四月から機械工学科に配属となりました。派遣社員として東海大学に勤務するようになってから、3年目となります。大学へ勤務する以前に他の企業で社員として働いていた経験があるとはいえ、それまでとは全く違った環境での仕事は右往左往するばかりです。何かと至らない点があるかと思いますが、今までの経験を活かしながら、少しでも皆様のお役に立てるように仕事をしたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願致します。

今年四月から機械工学科に配属となりました。派遣社員として東海大学に勤務するようになってから、3年目となります。大学へ勤務する以前に他の企業で社員として働いていた経験があるとはいえ、それまでとは全く違った環境での仕事は右往左往するばかりです。何かと至らない点があるかと思いますが、今までの経験を活かしながら、少しでも皆様のお役に立てるように仕事をしたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願致します。

今年四月から機械工学科に配属となりました。派遣社員として東海大学に勤務するようになってから、3年目となります。大学へ勤務する以前に他の企業で社員として働いていた経験があるとはいえ、それまでとは全く違った環境での仕事は右往左往するばかりです。何かと至らない点があるかと思いますが、今までの経験を活かしながら、少しでも皆様のお役に立てるように仕事をしたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願致します。

「会計就任にあたって」  
機械工学科 関根 啓由

今春生産機械工学科を卒業しそのまま技術職員として本学科にお世話になることになりました関根と申します。生産機械工学科の卒業とほぼ同時に会計として生友会に入ってもらえる事に感謝と共に責任を感じております。まだまだ社会に出たばかりですが、事務局長である吉沢さんの足手まといにならないように、精一杯に卒業生と学科のパイプ役として頑張っていこうと思っております。何卒、宜しくお願い致します。

「新任職員あいさつ」  
機械工学科 滝川 裕美



## 「趣味の効用」

生友会顧問 香川勝一

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝にお過ごしのことと存じます。

生友第六号で既に報告致しましたように、二〇〇一年四月一日に動力機械工学科に移籍を致しました。移籍に関連した事柄は前号で述べましたので、本号では趣味の効用について書いてみたいと存じます。

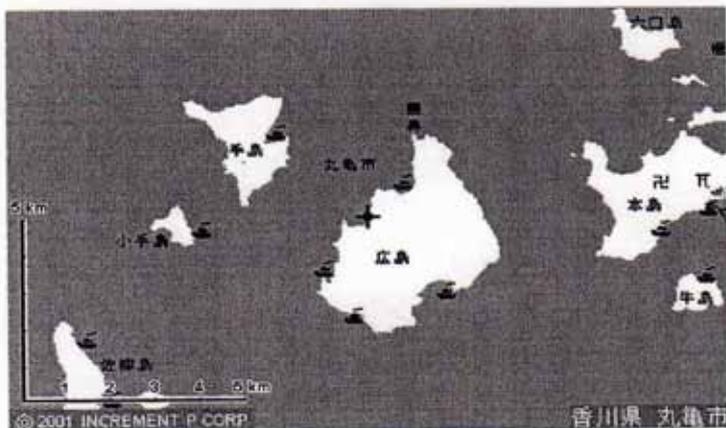
私も気がつけば人生五十二年過ごしてきましたが、この五十二年間、勉学、仕事、家庭等でのいろいろなストレスを経験致しました。ストレスはストレスの原因そのものを解決するか、ストレスを自分にとって無価値であるとして無視してしまうかできれば解消したことになると思いますが、解消するまでの過程においていろいろと煩悶します。このような時に私は趣味である釣りのことを考えることにしています。釣りのことを考えている釣りをしているれば最高ですが、しばしばストレスを忘れることができます。気分転換になり新たな解決法が見つかることもあります。とにかく釣りが好きなんです。私の釣り好きは生まれ育った環境にあると思われる。私は、瀬戸内海の周囲二十四km程度の島で生まれ十五才までを過ごしました。自宅の前に港があり、自宅前五mが波打ち際であったことにより、小学生に行くか行かないから釣りをしていた記憶があります。

もちろん島ですので山があり、冬から春の間は山へ鳥を取りによく行きましたが、私にとっては釣りのほうが向いていたのでしよう。現在でも夏には釣りをするために帰郷しています。

実にたくさんの方がいます。例えば、私の一番好きな釣りであるメバル釣りについてどのような事を考えているのかといいますと、まず餌はゴカイにするかガラモエビにするか類似餌するか、ゴカイをどこに堀りに行くか、ガラモエビをどこに取りに行くか、仕掛けはどのようなか、テグスの太さはどのようか、船で行くか磯から釣るか、磯はどこか、磯がいいか、はたまた港の堤防のどこで釣るか、等々、このように釣りの事を考えていますと際限がありません。

私の趣味である釣りについて思いつくままに書いてみましたが、ストレスを感じたときに釣りのことを考えるだけで気分転換になり、ストレスを忘れることができますので、私にとって釣りの効用は絶大なものがあります。

末筆ながら、卒業生の皆様の益々のご健康とご発展をお祈り申し上げます。



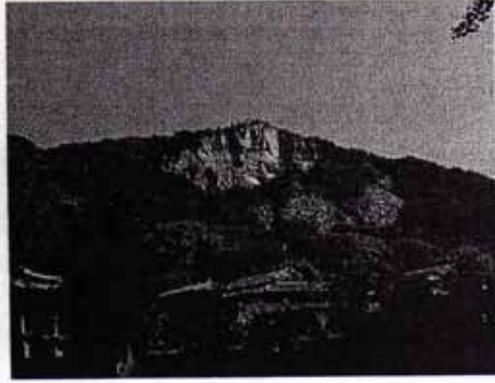
香川県 広島



王頭山からの展望



市井なき海岸



心経山

## 「卒業生紹介」

九十五年卒業

棚タチエス 大野 茂雄

生産機械工学科を九十六年に卒業しました大野茂雄と申します。卒業後、現在勤務しております「棚タチエス」に入社以来、設計部に配属され車のシートの設計を担当しております。私の勤務します棚タチエスは、自動車用シートの専門製造メーカーとして様々な種類のシート設計から製造まで行っており、特徴としては、一メーカーに限らずトヨタ・日産・ホンダ・三菱など国内十一のメーカーと一部海外メーカーと取引しております。私の仕事は設計ですが、現在技術センターという建物の中で働いており我が社は、東京・愛知・デトロイトの三カ所に技術センターを持ち、入社以来愛知技術センターでトヨタ車のシート設計を担当しております。

シートの設計というのは、大学で学んだ「機械設計」の他に、シートの表面材・クッション材(パッド)・樹脂プラスチック材の設計とさまざまな部品の設計を行います。特に衝突安全(衝突・オフセット衝突・後突)の強度条件の基に、それぞれのターゲットユーザーの商標性、各国の法規に合わせた設計をしております。また、設計工程は、車両へのシートレイアウト計画↓詳細設計(計画)↓部品設計↓製図↓手配という順に進んで行きます。その他に多くの仕事を抱えております。これら行程の中でも開発初期段階では、カーメーカの中にゲストエンジニアとして出向し、シート専門設計をボディ担当と協力しながら量産車を開発しております。出向先は、トヨタ系ボディメーカーの関東自動車などで、ピッツ・ファンカーゴなどのシート設計開発を進めてきました。

私が入社してからは、コンピューター技術の発達に伴い、仕事のやりかたも大きく変化しました。CAE・CADの発達、インターネット技術力進歩に伴うネットワークの拡大により、仕事の効率化がはかられ、車

両の開発期間が短縮化されております。特に試作品を造らず開発する方向に進んでいる為、設計の仕事の重要性もアップしたと言えると思います。以上、簡単ですが、私が東海大学を卒業して従事しています仕事についての紹介をさせて頂きました。

九十九年度卒

機械工学専攻在学中 立川 隆

近年、産業の著しい発展に伴い私たちの身の回りには多くの機械が存在している。機械にはマイクロマシンから、自動車、建築機械、航空機のように大きな機械まで多くあり、またそれらを造り出す機械もある。この様なあらゆる分野で活躍するために、私は生産機械工学科で学ぶべきだと思い、本学科に入学致しました。生産機械工学には、機械、流体、熱、材料の四つの力学を基礎として多くの専門知識を学べ、それにより機械工学に関する基礎知識を習得できたと思えました。特に機械設計製図の講義では、自ら設計書と図面を書き実際に物を造るとい難しさと楽しさを学ぶことができました。今後、生産機械工学科で学んだ知識を基礎に社会で頑張りたいと考えております。

## 「研究室紹介」

### マイクロ加工に挑む

今回ご紹介いたします研究室は、香川助教教授の研究室「材料加工実研究室」をご紹介します。

主な研究は、次のような放電加工に関する研究です

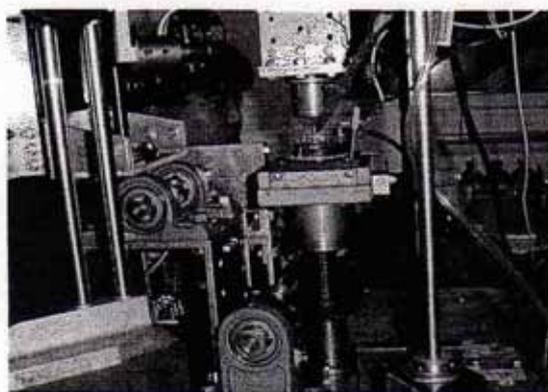
- 一、ストリート微細穴加工
- 二、微細深穴放電加工
- 三、微細深四角穴放電加工

微細穴加工には、ワイヤー放電加工、レーザー加工、電子ビーム加工等がありますが、加工穴に「バリ」が生じるなど加工精度上問題があります。それに対して放電加工は、誘電性材料であれば硬さに関係なく、非接触加工ができ、かつバリも生じないことから、各種の高精度加工に用いられています。しかし、微細穴加工は、放電屑あるいは電極消耗により、ストリートな穴加工、深穴加工を行うことが困難になります。(微細穴とは、通常直径三〇〇マイクロ以下の穴を指します。)

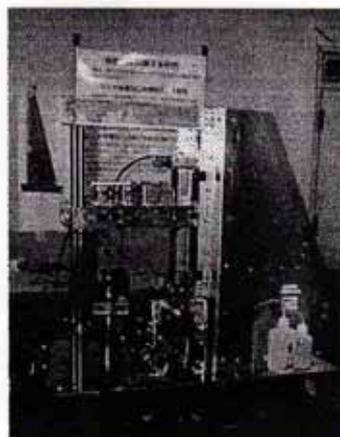
放電加工も導電性材料であれば前述のように硬さに関係なく加工することが可能ですが、ストリート電極を用いて微細加工した場合でも、放電屑の影響を受け入口側の直径が拡大し、入口側と出口側の穴直径は等しくならず、穴直径の改善には効果がありません。そのために、直径φ一〇〇〜三〇〇マイクロの微細穴を多数あける必要がある紡糸口金などは、電極を揺動させて加工入側と出口側の穴直径を等しくする加工方法を用いています。しかし、この方法では、加工機に揺動機構を設けるとともに、揺動量の制御を行う必要があるため、加工機は大変大型化してしまいます。

そこで、このようなストリート微細穴加工の現状を改善するために、香川先生は「段付電極」を考案され、通常のストリート電極を段付形状にすることにより、放電屑による穴直径の拡大の現象を改善し、コンパクトな加工機で加工穴の入口側直径と出口側直径が等しい、ストリート微細穴加工を可能とし、また、最も微細で深穴加工にも成功致し、これらの研究に関しては、日刊工業新聞に取り上げられ、本年四月十日の日刊工業新聞に掲載されました。

現在研究室では、生産機械工学科の学生が九名おり、原則として月曜日から金曜日、九時半から四時半まで香川先生の指導の基、日々研究に打ち込んでおります。また、研究室の伝統となっている月一回行われるコンパは、卒業研究は休んでもコンパを欠席することは、許されないそうです。やるときはやり、飲むときは飲むのが、材料加工研究室のもっとうだそうです。以上



微細深穴加工



香川先生が設計された放電加工機



楽しいコンパ



実験風景

### 「生友会賞」

昨年度、生友会賞の受賞者は、主任教授の伊藤高根先生より推薦を頂き、教室会議にて承認されました。  
 「半田 絢子」さんが受賞されました。

### 「生友会会規改正」

二〇〇一年度第七回生友会総会にて、慶弔見舞金と結婚祝金に関して審議され、新たに会規に次の項目を加えることになった。

#### 慶弔金、見舞金

現生友会役員とその家族に弔慰金と祝金を給付する。給付する期間は、事実が発生してから一年以内とし、本人または、役員により申請を行い所定の用紙により事務局に届け出るものとする。家族とは次のように定める。

配偶者、父母、子、同居している義理父母

#### 一、弔慰金

現生友会役員並びにその家族が死亡した場合弔慰金と生花を給付する。

弔慰金 五,〇〇〇円

生花 一五,〇〇〇円

#### 二、結婚祝金

現生友会役員が結婚した場合、祝金二〇,〇〇〇円と祝電を給付する。

#### 三、出産祝金

現生友会役員又は、配偶者が出産した時、出産祝金として一〇,〇〇〇円を給付する。

### 「生友会新役員紹介」

本年十月二十七日、第七回総会において次の様に役員が改正されました。

会長	鷺田 義昭
副会長	堀池 正起 内田 淳
事務局長	吉澤 好良
顧問	青木 克巳 粕谷 平和 香川 勝一 荻野 弘彦
会計	関根 啓由
書記	土方 裕之
渉外	浜吉 昌樹
広報	沖 真 岩澤 敏文
事業	若槻 光昭 境 千寿
会計監査	山本 徹 宮本 威信
事務局より	佐藤 昌良
事務局長	吉澤 好良

本年度春、秋卒業生は合計約百十名でしたが、生友会に入会していただいた方は、二割強の二十九名でした。

た。この数年この様な状況が続いており、同窓会の運営維持をしていくのが将来難しくなるのではと危機感を持っております。同窓会として、どの様な企画運営をしたらより多くの方に入会していただけるか思索しております。

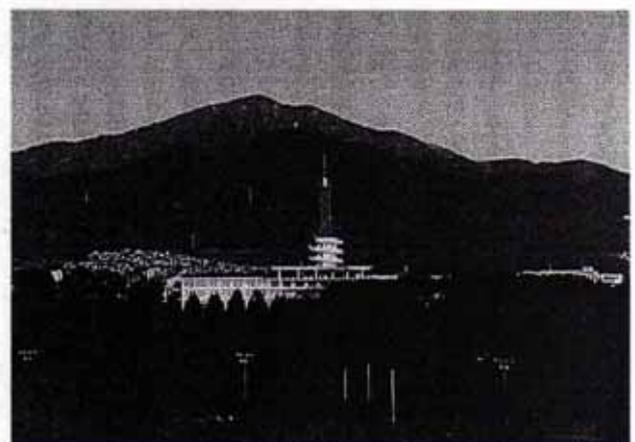
同窓会として現在行っている主な活動・業務は、総会・懇親会・会員住所録作成などありますが、より在学、卒業生に魅力ある同窓会に発展させるためにはどの様な活動が今後できるか、現在疑問を抱いております。今回の総会開催にあたって卒業生の皆様に案内状を発送致しましたがご返事を頂いたのは、わずか五十名の方だけでした。その中で卒業生の方のご出席のご返事を頂いたのは役員をのぞき二名のみという結果であり、この原因は、在学生・卒業生の皆様において生友会の認識度が低い結果だと反省しております。今後より多くの皆様に関心を頂くために在学生・卒業生へ、生友会のアピールがより必要でわないかと考えております。そのために、卒業生と在学生の就職相談会、各校舎・工場の見学会、家族懇親会などを立案しておりますが、これらも皆様のご協力なしでは実現が難しいと思います。生友会をより発展させて行くために、是非とも皆様のご意見、ご指導、ご協力を頂きたいと存じます。

本誌発行に至ってご協力いただきました皆様にこの場をお借りし、お礼申し上げます。



総会終了後の懇親会にて

2001 10 27



12号館機械工学科7階より

### 総会日時

生友会総会および懇親会は、原則として毎年、十月最終土曜日に行います。

### 事務局連絡先

〒二五九-1129  
 平塚市北金目1-1-7  
 東海大学工学部機械工学科内  
 内線四六三-1581-1211  
 内線五八二五

吉澤 好良